

平成23年9月定例会（12月議会）

# 農 林 水 産 委 員 会

（所管事項関係）

## 提 出 資 料

平成23年12月5日

農 林 水 産 部

# 目 次

- 1 秋田米プロモーション事業の実施状況について [流通販売課] ----- 1
- 2 平成24年産米の生産数量目標について [水田総合利用課] ----- 4
- 3 「千秋丸」代船建造スケジュールと現船処分について [水産漁港課] ----- 5
- 4 平成23年のハタハタ漁獲状況について [水産漁港課] (当日配付)

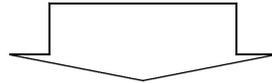
# 1 秋田米プロモーション事業の実施状況について

流通販売課

## 1 実施概要

### (1) 目的

- 多くの人に「秋田米」のおいしさを伝える
- 「朝ごはん摂取」「環境共生」「被災地支援」「食育」を米主産地から働きかけ



消費者の産地への信頼、共感を育む

||

秋田米を選んでもらえる環境づくり

### (2) 実施内容

- ① 俳優の渡部秀氏による産地イメージの浸透
  - ・ スーパー等へのポスター、のぼりの掲示、イベント活用 等
- ② 被災地支援に繋がるオープン懸賞
  - ・ スーパー等へのチラシ配置 (50万枚)、Webページの作成
- ③ TV、雑誌等のマスメディアを積極的に活用
  - ・ TV番組招致 → 旅サラダ (朝日放送) ほか2番組
  - ・ 雑誌記事掲載 → dancyu (11.7万部)、食楽 (7.0万部)、Saita (13.2万部)
  - ・ オープン懸賞広告掲載 → 上沼恵美子のおしゃべりクッキング (15万部)  
おはよう奥さん (16.6万部) ほか4誌
- ④ JR有楽町駅前での秋田米イベント
  - ・ 10月1日、秋田米プロジェクト応援大使の任命、おにぎり9千個を配布
- ⑤ 大手量販店 (イトーヨーカドー) での生産者参加の試食会
  - ・ 生産者3名が参加
  - ・ 11月12日～13日 アリオ亀有、11月19日～20日 ほか9店舗
  - ・ 同時にイトーヨーカドー・ネットスーパーで秋田米産地情報を発信
- ⑥ 幼稚園での食育イベント
  - ・ 首都圏の2幼稚園 (10月27日 東京都北区 いなり幼稚園、10月28日 東京都葛飾区 葛飾みどり幼稚園) で、秋田米のおにぎり作り体験等を実施し、園児135名、保護者70名が参加
  - ・ イベントの様子を、育児情報誌「あんふあん」(71.4万部のうち、首都圏・阪神・中京地域の32万部) で発信
- ⑦ 料理サイトでの秋田米レシピ掲載 (10月10日～11月7日)
  - ・ お手軽秋田の朝食レシピ 2品
  - ・ 秋田米でアレンジレシピ 2品
- ⑧ 秋の実りに感謝する会 (11月19日)
  - ・ 場 所 アンチエイジングレストラン「リール」(東京都港区)

- ・ 内 容 「あきたこまち」、「淡雪こまち」、比内地鶏、由利牛等の料理を試食
- ・ 参加者 橋本五郎、長崎宏子、田口光久、藤田智など32名が参加（敬称略）

#### 【誤表示に伴う追加イベント】

- 11月5日（土）～6日（日） 全農農畜産物チャリティフェア  
渋谷NHK放送センター広場で1万個を配布
- 11月20日（日） 安全・安心「あきた米」キャンペーン in 渋谷  
渋谷109前広場で2万個を配布
- 平成24年2月19日（日） 青梅マラソンにおいて2万個を配布予定

## 2 現在の秋田米の販売状況

- (1) 市場シェアは持ち直し  
前年6月末： 5.49% → 今年6月末： 5.76%
- (2) 在庫量も大幅減少  
前年6月末： 約17万トン → 今年6月末： 約12万トン
- (3) 全農県本部の契約数量・契約進捗も改善(平成23年11月18日現在)  
契約数量 前年： 18.9千トン → 本年： 53.6千トン (284%増)  
契約進捗 前年： 15% → 本年： 51%
- (4) 概算金の値上げ（あきたこまち1等B）  
前年： 10千円/俵 → 平成23年産米： 12.8千円/俵
- (5) 全農の卸への売渡価格も上昇（全農建値 11月20日現在）  
前年： 12.2千円/俵 → 平成23年産米： 15千円/俵

## 3 秋田米プロモーション事業の成果・評価

- (1) 「秋田米」PR機会の拡大
  - ・ チラシ配布 50万枚
  - ・ 雑誌記事掲載（3誌） 31.9万部
  - ・ フリーペーパー（あんふあん） 32万部
  - ・ 雑誌広告掲載（6誌7回） 199.8万部
  - ・ Saita抜き刷り 1.0万部
  - ・ TV視聴率（既放映2番組） 731万世帯(視聴率7.5%として推計)
  - ・ COOKPAD秋田米レシピ閲覧数 5.3万件
  - ・ 秋田米試食（既実施分） おにぎり：3.9万個分  
イトーヨーカドーでの試食：2万人分
  - ・ 新聞記事掲載 延べ18紙
  - ・ Webニュース 延べ34件
  - ・ その他イベント

- (2) 契約の進捗や卸への売渡価格など、米の販売面での数値が向上
- (3) アンケート等によると本PR手法の有効性には一定の評価
  - ・ イトーヨーカドー(亀有)試食イベント : 効果高い 97/105 (92%)
  - ・ COOKPAD : 秋田米を使ってみたい 60/63 (95%)
  - ・ イトーヨーカドー(亀有)での販売量も増加  
通常時 : 429kg/日 → イベント時 : 625kg/日
- (4) キャンペーン応募数 (11月24日現在)
  - ・ 20,300通 (Web 15,200通 ハガキ 5,100通、1日平均で376通)

#### 4 平成24年度における秋田米プロモーション事業の方向性

- (1) 本年度の取組の総括
  - 東日本大震災や作柄等が大きな要因ではあるが、契約進捗等、販売面のデータは向上している。
  - 消費者からはイベント等の継続的な開催が望まれるなど、PR手法については一定の評価をいただいた。
  - 秋田米のマーケティング調査結果では、「秋田米の説明力の弱さ」などが指摘されたことから、今後は、秋田米のおいしさや産地の取組を直接、消費者や実需者に周知することを重視する。
- (2) 方向性
 

秋田米のブランド力向上に向け、消費者へ直接、秋田米のおいしさや産地の取組等を伝えるPRをメインとして、引き続き取り組む。

  - ・ 大手流通での生産者参加による試食宣伝会
  - ・ 米卸や量販のバイヤー、中外食事業者、消費者代表を対象とした秋田米試食会の開催
  - ・ 首都圏等における秋田米おにぎり配布イベント 等

#### 参考：秋田米エリア等マーケティング調査結果（秋田米の現状、課題の検証）

※ 消費者調査：800点、量販等店頭調査：10カ所

米仕入れ担当者アンケート：181社、ヒアリング：20社

- (1) 秋田米の現状・評価
  - ① 秋田米のブランド力は低下傾向
  - ② 認知度の高さが購買行動に繋がっていない
  - ③ 卸が秋田米を実需へ提案していない
  - ④ 秋田米のアピール力・販促が弱い
- (2) 取り組むべき課題
  - ① 秋田米の説明力、消費者コミュニケーションの強化・改善
  - ② 店頭販促の強化
  - ③ 産地の営業力強化

## 2 平成24年産米の生産数量目標について

水田総合利用課

### 1 本県への生産数量目標の配分について

- 12月1日、国は平成24年産米の全国生産数量目標を決定するとともに、過去6年間の米の需要実績を基に、各都道府県に対し生産数量目標を配分した。
- 全国生産数量目標は、依然として米の需要が減少傾向にあることから、昨年より2万トン減少の793万トンとなった。
- 本県生産数量目標は、23年産に比べ3,220トン増の443,640トン（面積換算では560ヘクタール増の77,420ヘクタール）となり、5年ぶりに増加となった。

	23年産	24年産	対前年比
全 国	7,950,000 トン (150 万ha)	7,930,000 トン (150 万ha)	▲ 20,000 トン (-)
秋 田 県	440,420 トン (76,860 ha)	443,640 トン (77,420 ha)	3,220 トン (560 ha)
全国シェア	5.54 %	5.59 %	0.05 ポイント

※（ ）内は面積換算値

- この要因としては、
  - ・ 販売価格の弾力的な設定など、売り切り重視の販売戦略を推進したこと
  - ・ 東日本大震災等に伴い、米の需要が一時的に増大したことなどによって、過年産の在庫を含めて、秋田米の販売が好転したことによるものと考えている。
- 県としては、全国的な米需要の低迷が続く中で、「新たな秋田米販売戦略」に基づき、引き続き、関係機関・団体と一体となって、秋田米の販売を推進していく。

### 2 市町村別の生産数量目標の配分について

- 市町村別の生産数量目標については、秋田県農業再生協議会における配分量の算定方針や方法等の協議を踏まえ、年内中に配分する予定である。

### 3 「千秋丸」代船建造スケジュールと現船処分について

水産漁港課

漁業調査指導船「千秋丸」の代船建造は、詳細設計が最終段階に入り、1月に漁船建造許可申請を農林水産大臣に行う予定となっている。

また、現船の処分について、東日本大震災で調査船が被災した宮城県と福島県に無償譲渡を打診していたが、それぞれで独自の対応が決まったことから売却処分を行う。

#### 1 代船建造スケジュール

- (1) 代船の規模 総トン数90トン級、定員12名(乗組員8名、調査員4名)
- (2) 契約者及び契約額 函館どつく株式会社 682,290千円
- (3) 契約工期 平成23年7月11日 ~ 平成24年12月3日
- (4) 今後のスケジュール
  - 平成23年度 1月：漁船建造許可申請
  - 平成24年度 8月：進水予定
  - 12月：竣工予定

#### 2 現船の処分

##### (1) 現船概要

千秋丸：187トン、平成9年竣工 第二千秋丸：18トン、平成3年竣工

##### (2) これまでの経緯と今後の対応

- 平成24年度に千秋丸と第二千秋丸を用途廃止するため、東日本大震災で県の調査船に被害が発生した宮城県と福島県に、無償譲渡を打診していた。
- 宮城県は、分損した「拓洋丸(120トン)」を修繕し使用、横転座礁した「新宮城丸(450トン)」と沈没した「蒼洋(19トン)」を解体。小型船については代船建造費を、大型船については2隻を1隻とする基本設計費を9月県議会に提案し、10月18日に可決された。
- 福島県は、調査船「いわき丸(159トン)」が小名浜港内で沈没し、引き揚げ後解体。(独)水産総合研究センターから漁業調査船「こたか丸(59トン)」の3年間貸付を受け、10月10日小名浜港に到着。
- これらのことから、現船2隻については、売却処分することとし、東日本大震災で被災し、船舶を必要としている漁業者等に売却の方針を早く伝える必要がある。
- 売却については、千秋丸は来年6月中、第二千秋丸は来年10月中を予定。
- なお、千秋丸の売却から代船の竣工までの間の調査は、民間漁船を借り上げて対応する。

##### (3) 処分の方法

- 入札方式 一般競争入札による
- 周知手段 県公報(公告時)、美の国あきたネット、水産業界紙への記事掲載依頼による

## 4 平成23年のハタハタ漁獲状況について

平成23年12月8日

水産漁港課

本県のハタハタ漁は、沖合での底びき網と、一般に「季節ハタハタ漁」と呼ばれる沿岸での定置網及びさし網により行われている。

平成23年漁期である9月から翌年6月までの漁獲可能量は、2,800トンで、その内訳は沖合1,120トン、沿岸1,680トンになっている。

現在の漁獲状況は、以下のとおりである。

### 1 沖合における漁獲状況

- 本年9月11日から12月6日までの底びき網による漁獲量は約361トンで、前年同期の約107%であるが、過去5年の平均に比べると約61%と少なくなっている。これは、昨年と同様に底びき漁場への来遊が遅かったことが要因と思われる。
- 魚体は、漁期初めは小型の1、2歳魚が主体であったが、11月末から大型の3、4歳魚も漁獲されるようになっている。

### 2 沿岸における漁獲状況

- 季節ハタハタ漁は、12月2日に男鹿北地域の五里合で14kgの初漁があり、ほぼ平均的な初漁日となっている。
- 12月4日には男鹿北地域の北浦で16kgの初漁の後、6日には2,148kgの水揚げがあったものの、12月6日現在、他地域での水揚げは報告されていない。
- これまでの沿岸における漁獲量は約2.2トンで、前年同期の約2%の漁況であり、盛漁期はこれから迎える。

#### ○ 初漁日と地域別沿岸漁獲量（12月6日午後5時現在比較）

地域名	年	平成23年	平成22年
	初漁日	12月2日	12月1日
県北部		— トン	16.8 トン
男鹿北		2.2	115.0
男鹿南		—	0.3
県南部		—	—
計		2.2 トン	132.1 トン

(水産振興センター調べ)